

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 5 月 20 日 10:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,600～39,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 36,500～42,800 ドル
(S&P500) 4600～6050

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 17,600～22,000
(ナスダック総合) 15,700～19,900

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～150.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～104.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

日経平均は、重要サポートとしての 200 週 MA を上回って推移しています。同 MA を今後も維持する限り、プライマリー上昇③波は依然継続中とみられます。

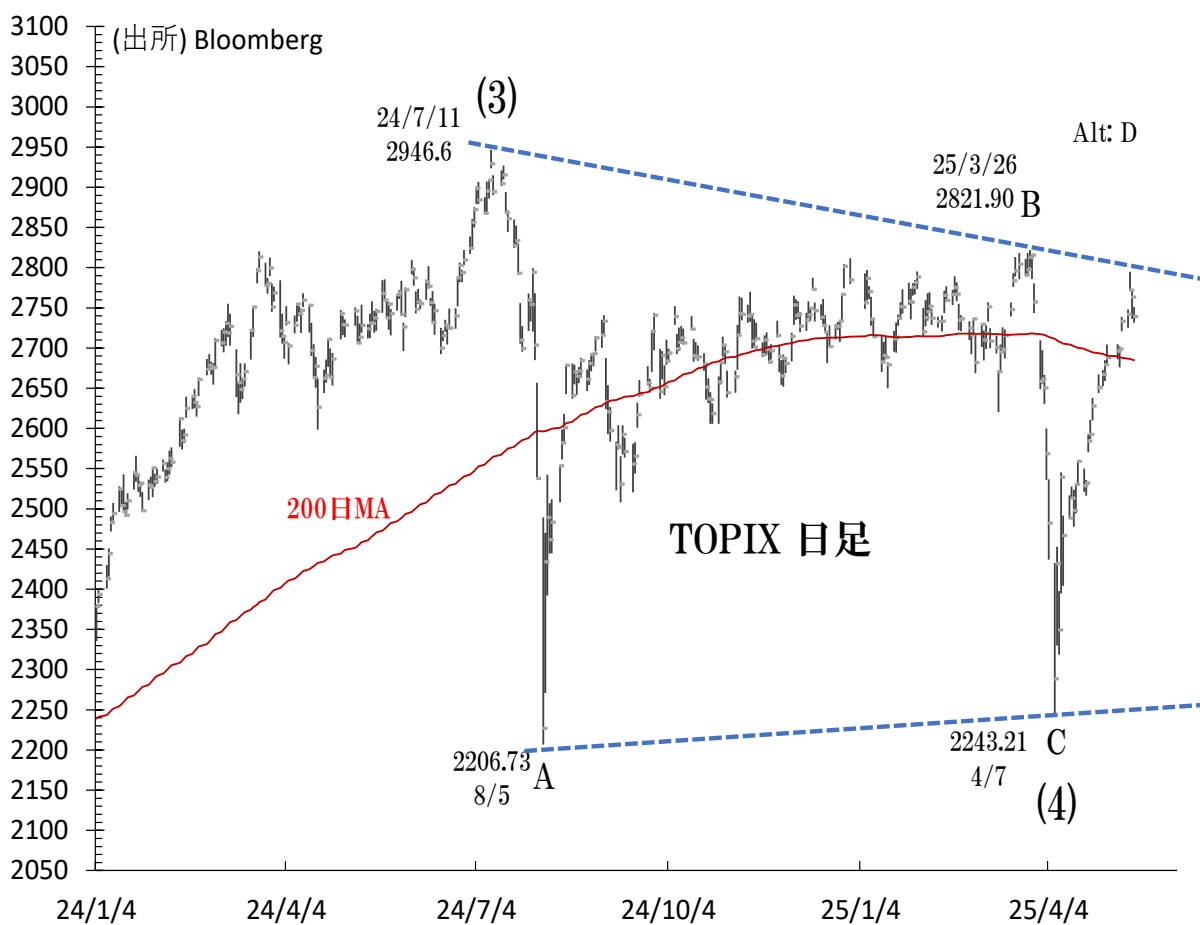
日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇を展開中とみられます。

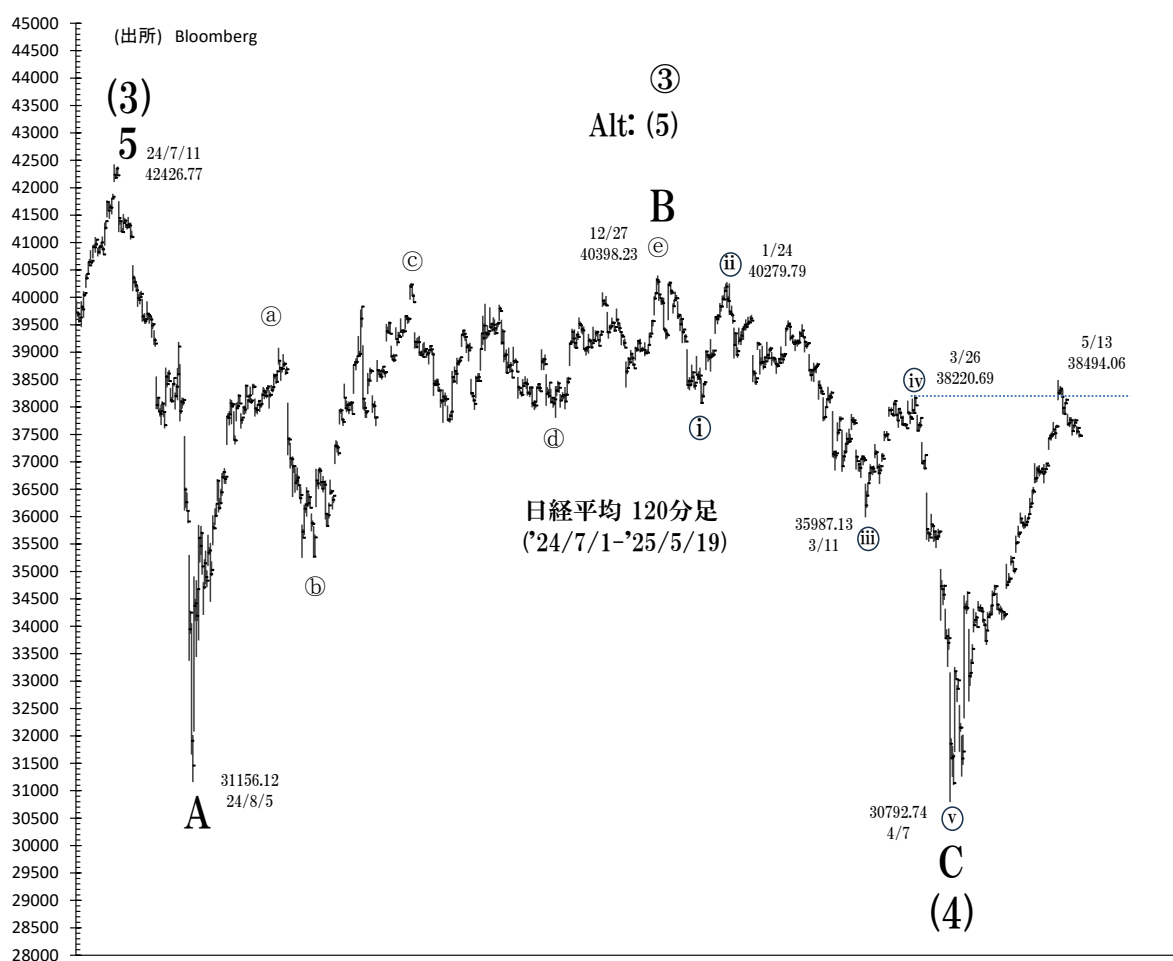
順当にいけば、第(5)波は 24 年 7 月高値(42,426.77 円)を上抜き史上最高値を更新するでしょう。

第(5)波は、20 年 3 月コロナショック底(16358.19 円)からのラリー中「最後の上昇」に相当します。

3 月期決算発表が終わりました。ハイテク、自動車、鉄鋼、海運など「トランプ関税」の影響が大きい企業を中心に、業績の頭打ち感・今後の不透明感が強まっています。

遠からず国内景気の後退入りも想定されますが、こういった状況を考慮すると、第(5)波の賞味期限はそれほど長くなさそうです。おそらく数カ月～半年という期間にとどまるでしょう。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

30,792 円(4/7 安値)から、インターミディエイト級第(5)波による上昇が進行中とみられます。
もっとも 200 日 MA 付近では利食い売りに押され、上昇基調は一服しています。

5 月 19 日の日経平均は 255 円安(-0.68%)でした。一方 TOPIX は 2 ポイント安(-0.08%)にとどまり(日中は前日比プラスになる場面もありました)、相対的な強さが目立ちました。

当面 TOPIX は 200 日 MA(2683)をサポートとしながら、次の上昇のきっかけを待つ状態と思われます。
年初来高値の更新は、そう遠いことではないでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

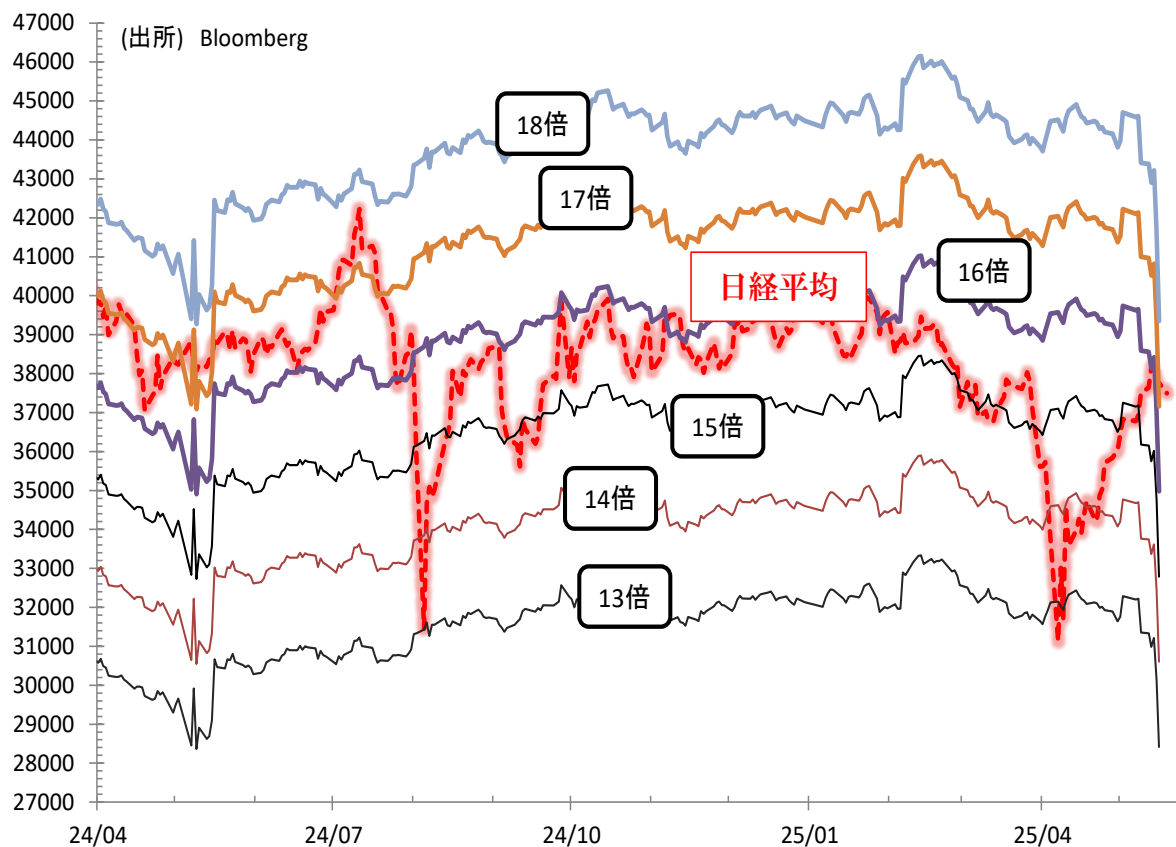
30,792 円を下抜くと以下の波動カウントに切り替えます。

24 年 8 月からの上昇第(5)波は 40,398 円(12/27 高値)を以て終わり—”truncated fifth”(短縮された 5 波)—プライマリー級の④波による調整が進行中とみられます。この場合日経平均は、いずれ 2 万 7000 円処(PBR1 倍水準)を試す可能性があります。

[予想 PER 別の日経平均水準]

5 月 19 日の日経平均予想 PER は 15.34 倍・予想 EPS は 2444 円。

過去最高の EPS は 2564 円(2/13)です。



NY ダウ・S&P500



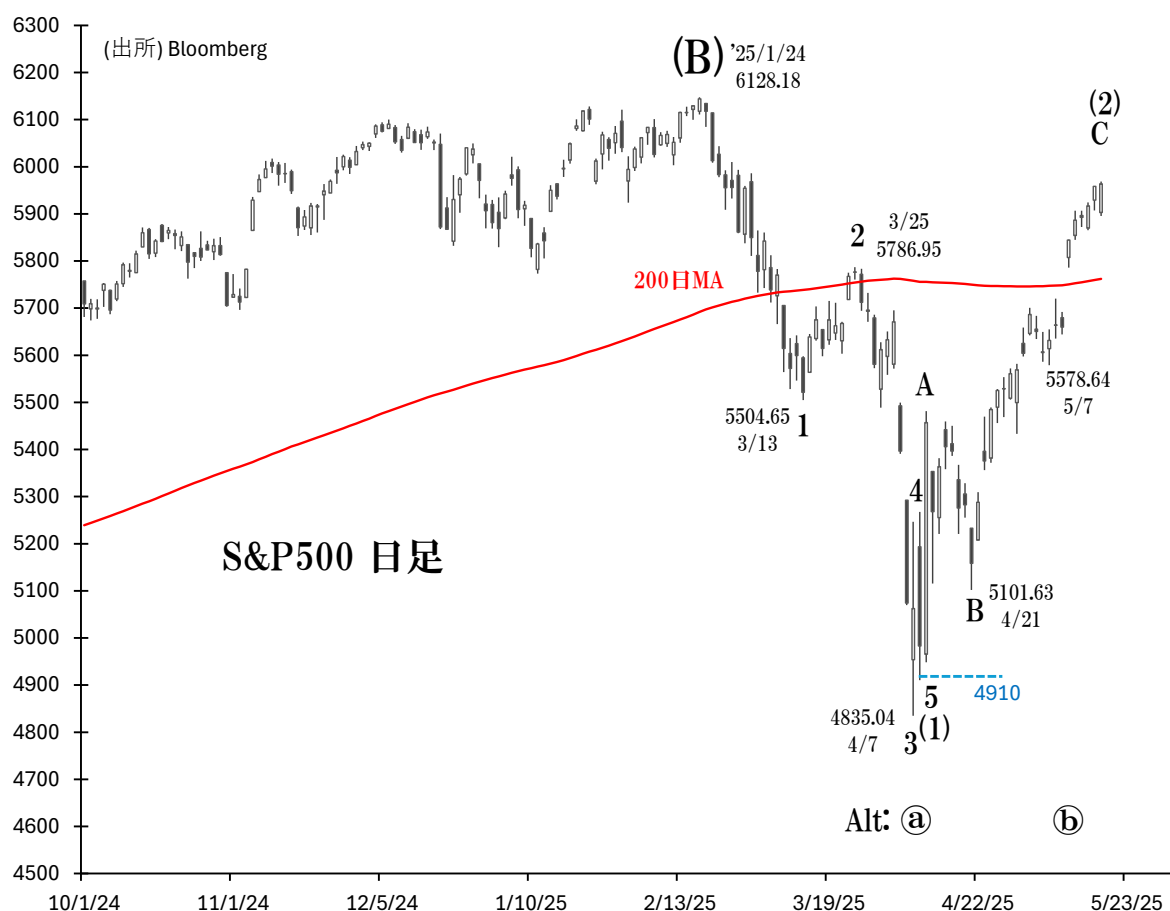
【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

36,611 ドル(4/7 安値)からは第(2)波によるリバウンドに当たります。

5 月 19 日は一時 42,842 ドルまで上昇しましたが、これにより第(1)波中レツサー・ディグリー第 4 波高値 [42,821 ドル](3/26)に達し、合理的な上値メドを満たしました。

第(2)波は完了したかもしれません。41,777 ドル(5/15 安値)を下回ると最初の弱気トリガー、第(3)波下落トレンド入りが示唆されます。

一方引き続き上値試しが続くなら、24 年高値からの下げに対する 76.4%–78.6%戻り[43,076 ドル–43,262 ドル] を試すことになりそうです。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

(プリファード(優先)・カウント)

4910(4/8 安値)からの第(2)波は目先のにも終わり、第(3)波による下落が始まるでしょう。

関税協議で米中が合意したのは 5 月 9 日。その前日の 8 日に一時 5720 まで上げましたが、それは米中合意サプライズ前に付けた 4 月以降の戻り最高値です。今後 5720 を終値で下回る動きは、米中合意の材料による上昇分すべてを打ち消すことを意味し、最初の弱気トリガーが発動します。

来る第(3)波のスケールは、少なくとも第(1)波と同じ(1293 ポイント)か、(順当なら)より大きなダイナミックなものになるでしょう。

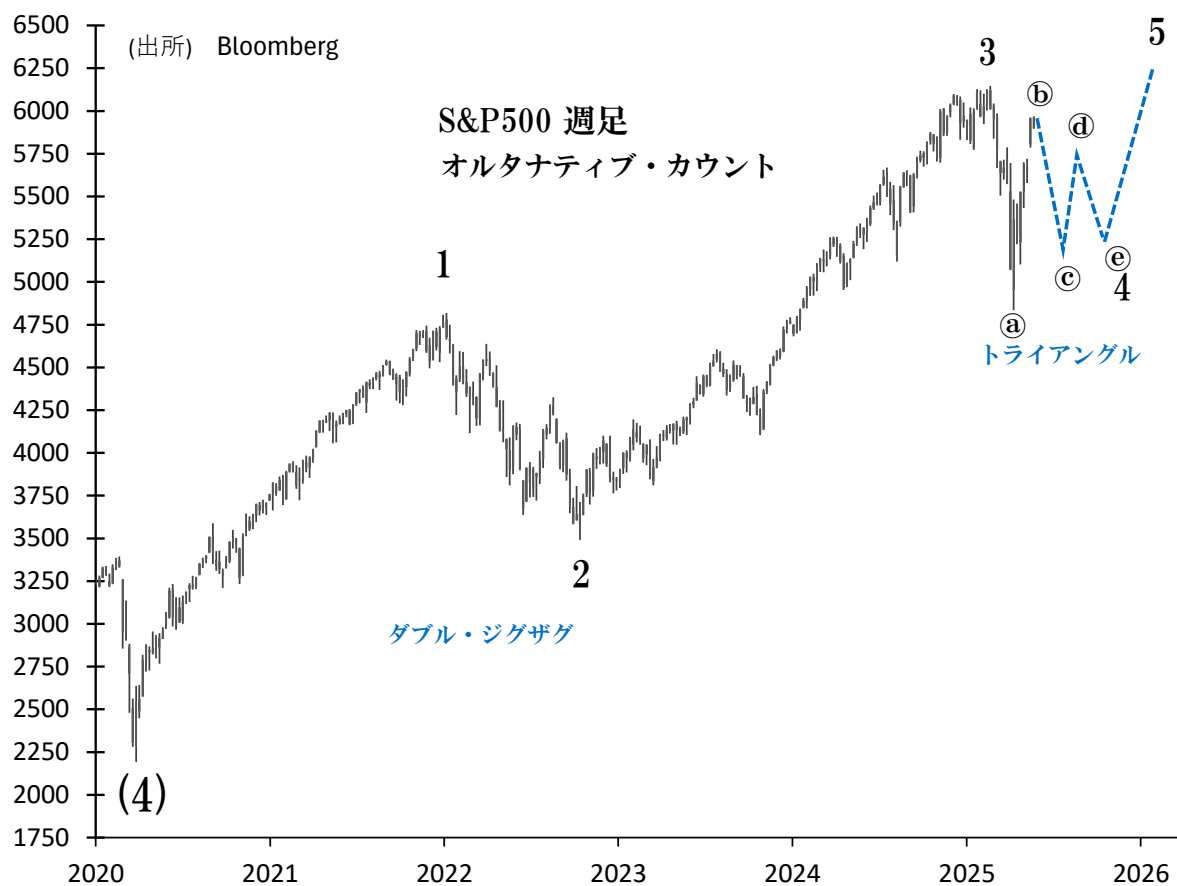
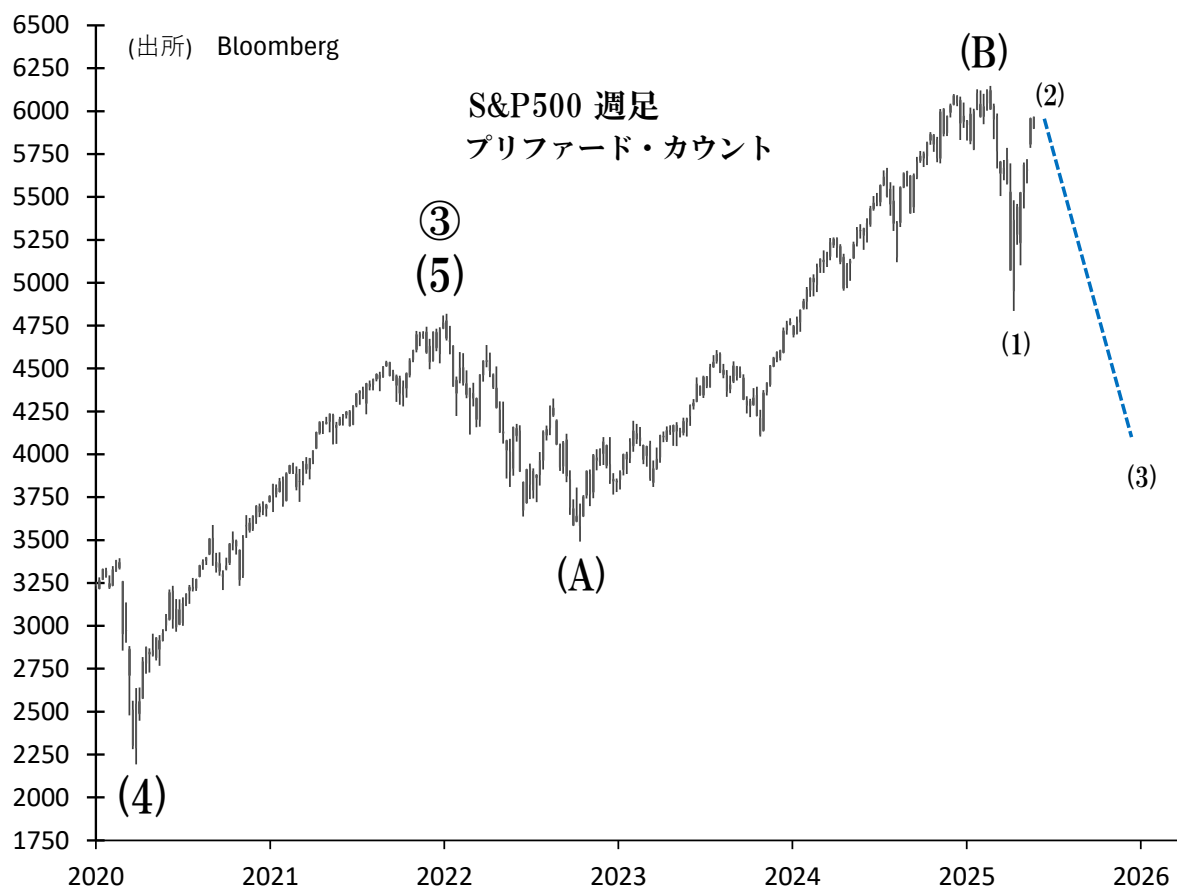
(オルタナティブ・カウント)

2020 年底からの五波構成中、今年 1 月からは第 4 波の調整局面です。

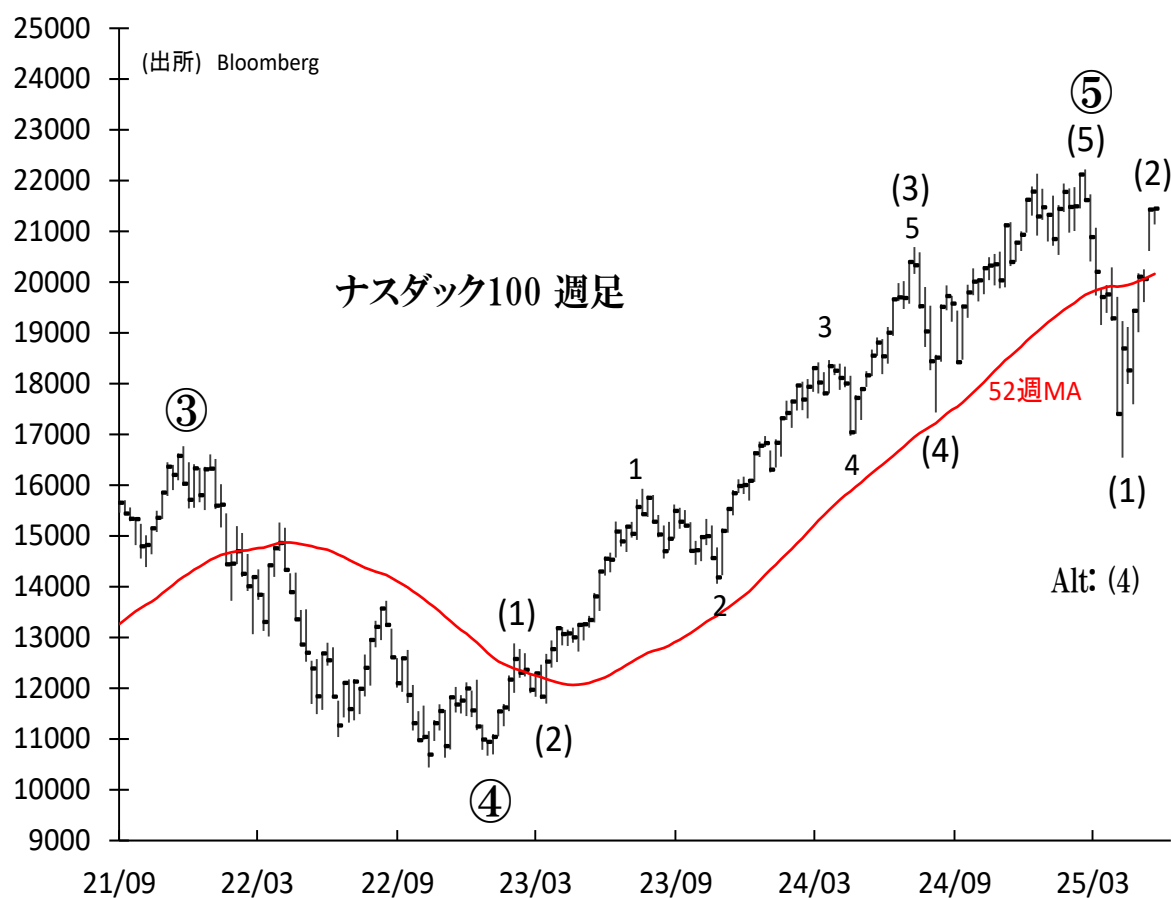
第 2 波(21 年末～22 年 10 月)が「ダブル・ジグザグ」だったことから、第 4 波は「トライアングル」「フラット」など複雑な保ち合い構造になるでしょう(オルタネーション)。

試みに「トライアングル」を想定すると、4 月からの上昇はパターン中⑥波です。まもなく⑦波の下げに入りますが、それは⑥波上昇分の 60%～70%を打ち消すでしょう。

これは弱気相場に入る前、最後の上昇第 5 波の可能性を残すシナリオです。



ナスダック



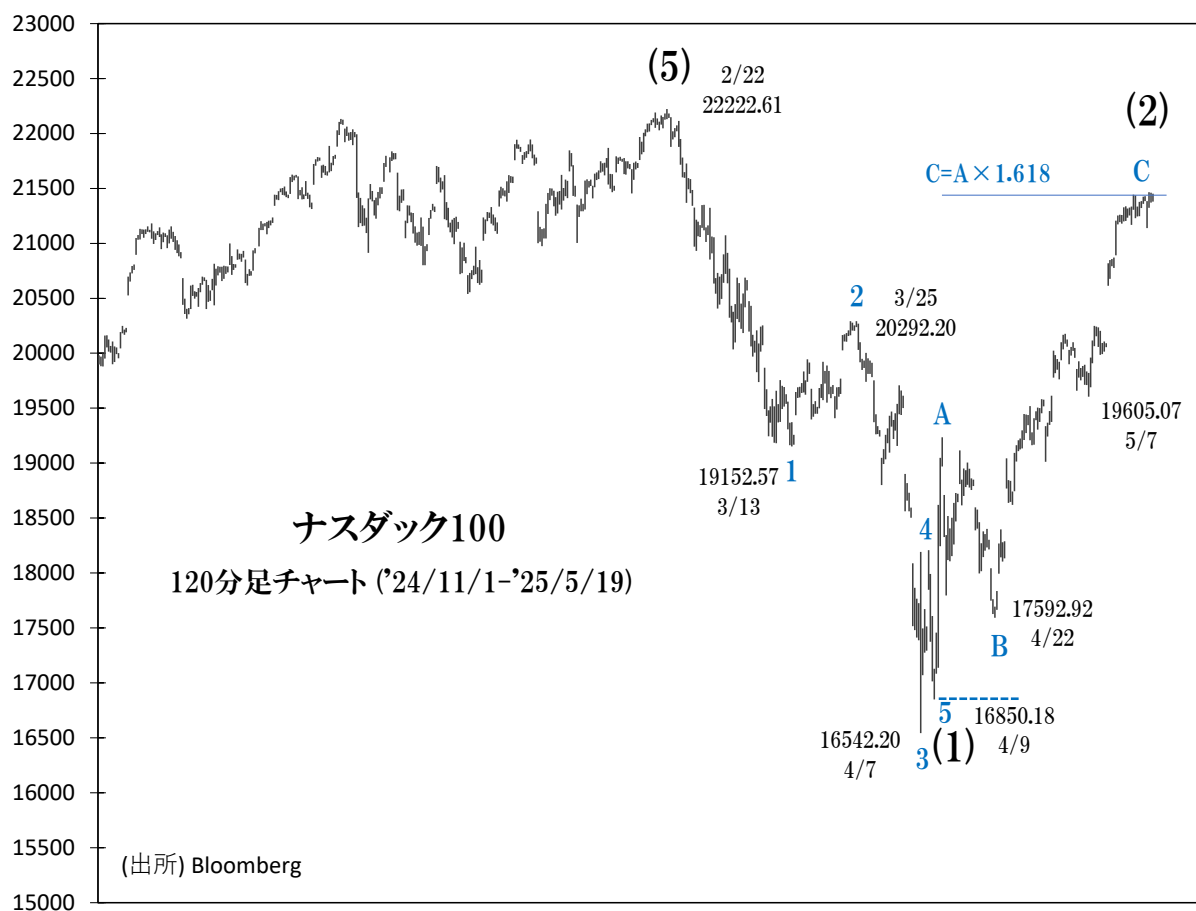
【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

ナスダック 100 は 25 年 1 月高値 (22,222) 以来、サイクル級の調整局面にあるとみられます。

ナスダック 100・総合指数はほぼ「全値戻り」となっています。これら二つの指数は近いうちに、1 月高値と現行の第(2)波を以て「ダブル・トップ」を形成し、そこから第(3)波の下落に入るでしょう。

オルタナティブ・カウントは、4 月安値からの上昇は第(5)波というもので—前の波に比べ第(4)波が大きすぎる点に違和感がありますが—ナスダックは高値を更新することが予想されます。それを以て強気相場は終了し、調整局面を迎えることとなります。





【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

16,850(4/9 安値)からは第(2)波リバウンドが進行中とみられ—第(1)波の下落トレンドにおいて第 5 波は短縮されました—そのパターンはジグザグ(A-B-C)です。17,592(4/22 安値)からの上昇は C 波に当たります。

既に A 波と C 波が 1:1.618 のフィボナッチ比率になる水準[21,449]を達成しており、目先のにも第(2)波は終わるかもしれません。

第(3)波による下落がスタートする可能性があります。

[20,249](5/8 高値)を終値で下回ると、第(3)波入りの最初のトリガーが発動します。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

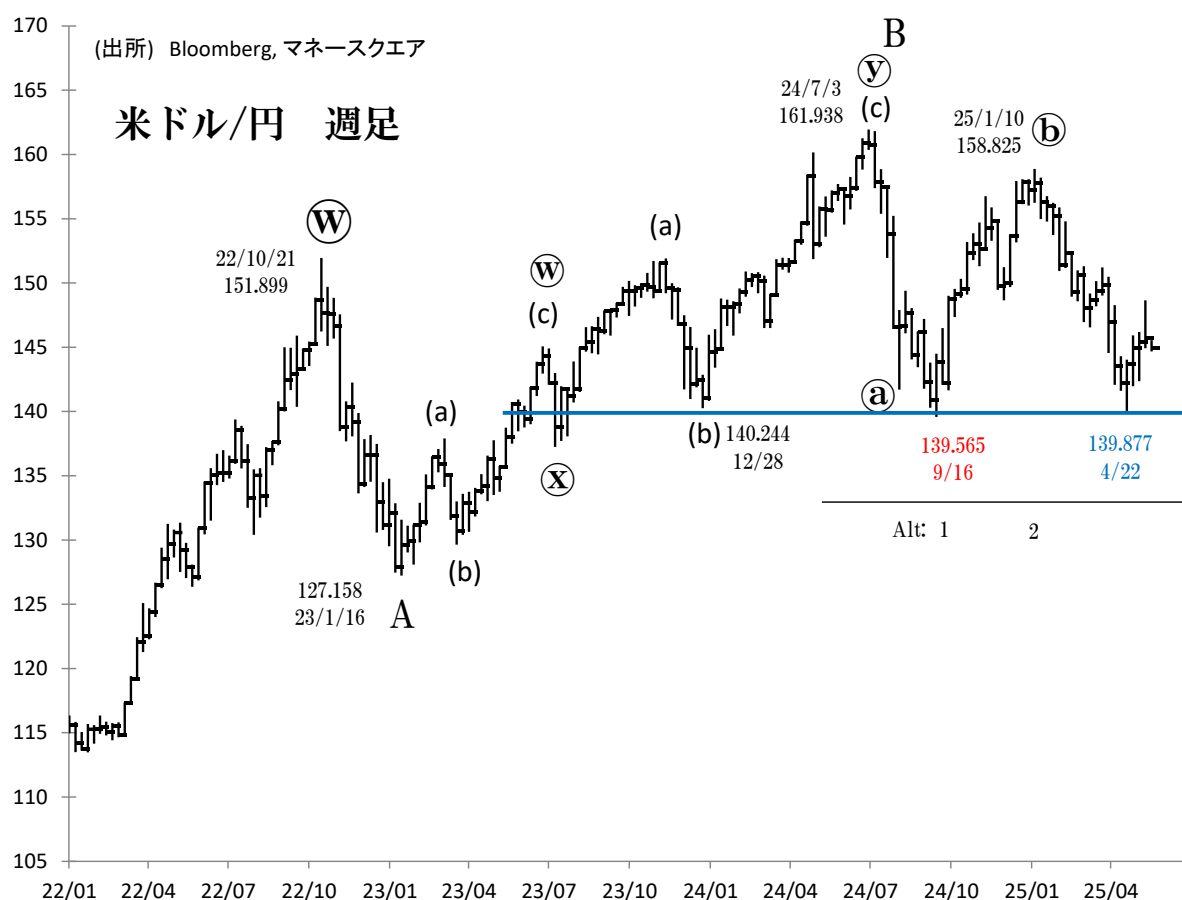
151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、まずは 2011 年からの上昇チャネルのセンターライン①136.680 円(5 月)がサポートレベルとみられます。

もっとも 139 円処を下抜くとヘッド・アンド・ショルダーズ型の天井パターンから明確に下放れ始め—上述したセンターラインで底入れせずに—フィボナッチ・サポートの[128.945 円]を試す展開もありそうです。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 117.050 円(5 月)です。



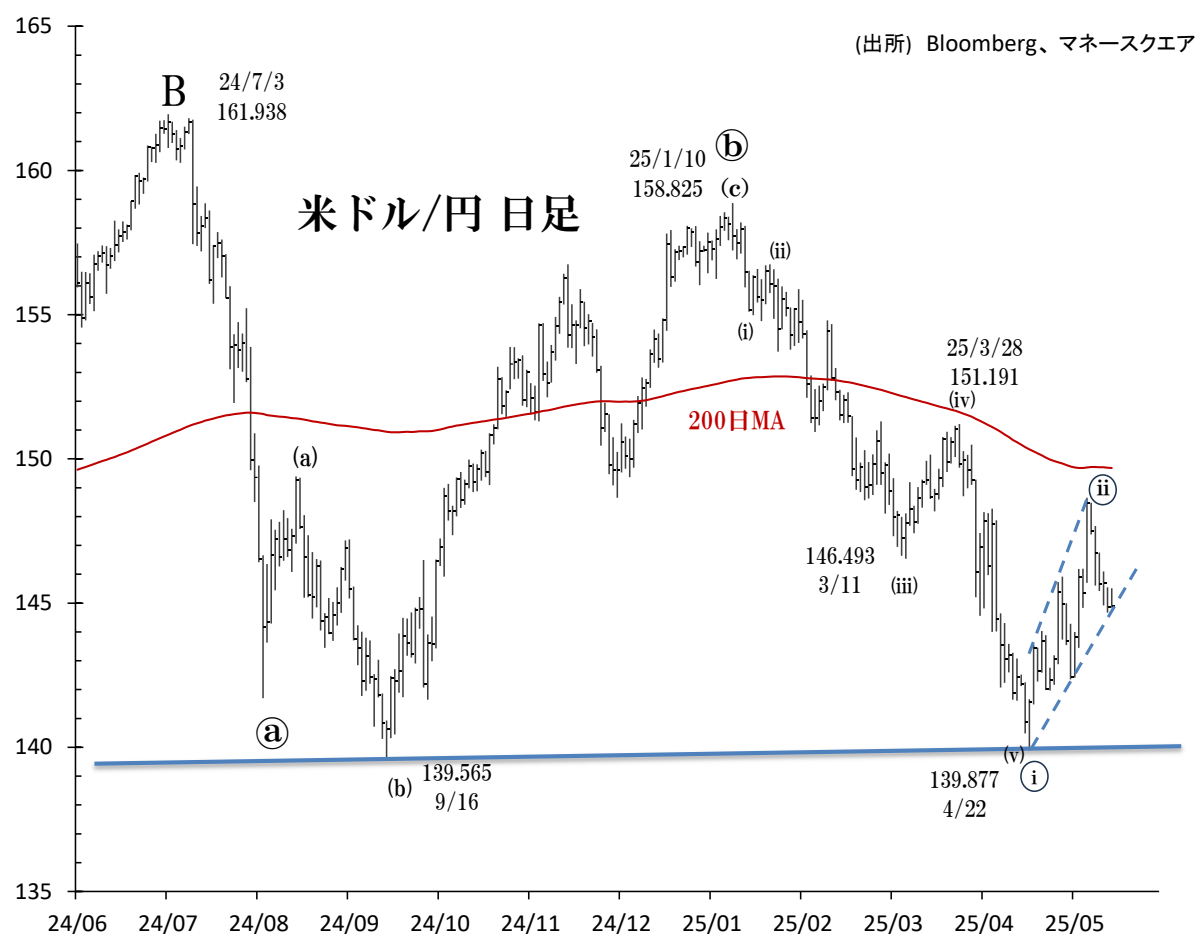
【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。C 波は(先ずは)三波構成((a)-(b)-(c))が想定され、158.825 円(1/10)から©波によるドル安・円高が進行中とみられます。

今年 1 月からのドル安・円高を第 3 波に位置付けることもできます。このサブシナリオによれば、先々1ドル＝120 円試しも視野に入ります。

139.877 円(4/22)からのリバウンドは終わったか、終わりつつあります。

遠からずヘッド・アンド・ショルダーズのネックラインをブレイクするかもしれません。そうなると円高基調は一段と鮮明になるでしょう。



【日足 エリオット波動分析】

5月12日に一時148.610円まで上昇しましたが、その後は反落。足元は145円付近へ反落しています。139.877円(4/22)からのドル/円上昇の波形はチョッピー（波の重複が目立つ）であり、これ自体がリバウンド局面の特徴をよく表しています。

マル ii 波によるリバウンドは、終わったか、終わりつつあるとみられます。

引き続き上値試しの場合は以下がメドになります。

[149.351 円]…マル i 波の半値戻り

[149.700 円]…200 日 MA

[151.191 円]…マル i 波のレツサー・ディグリー(iv)波水準。

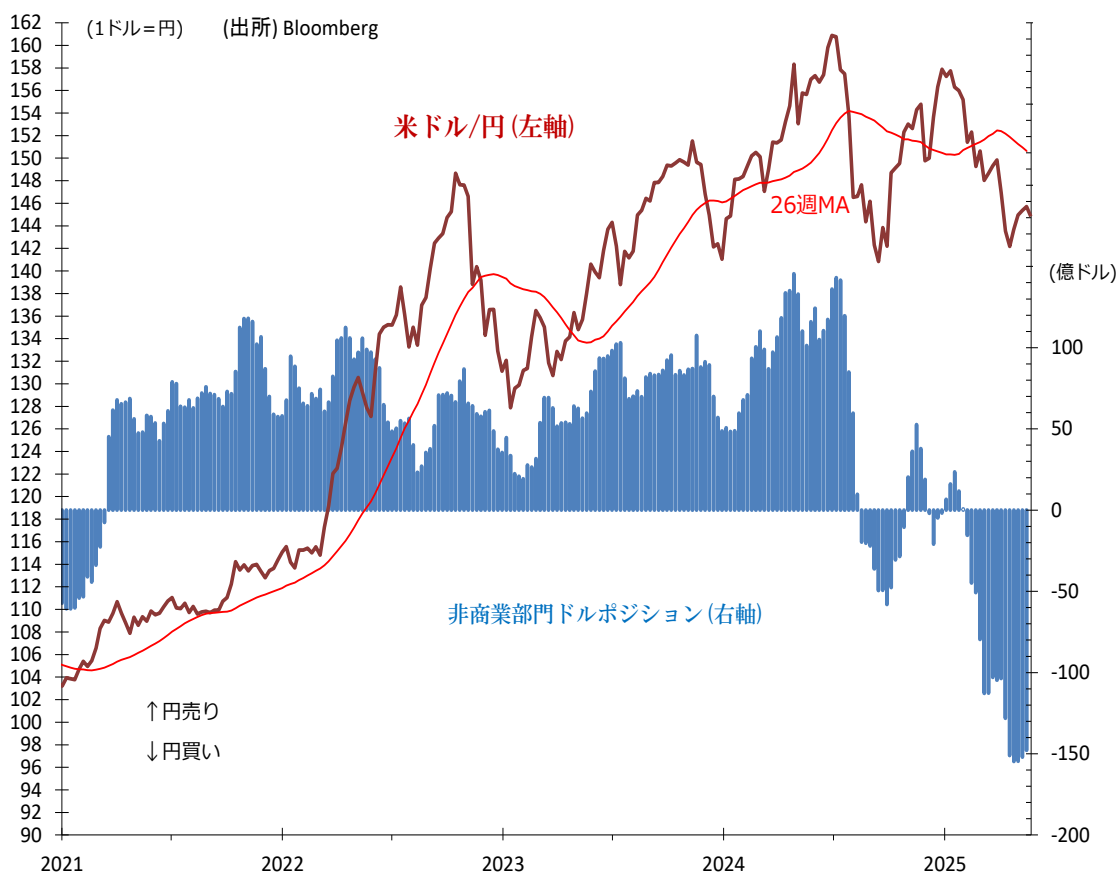
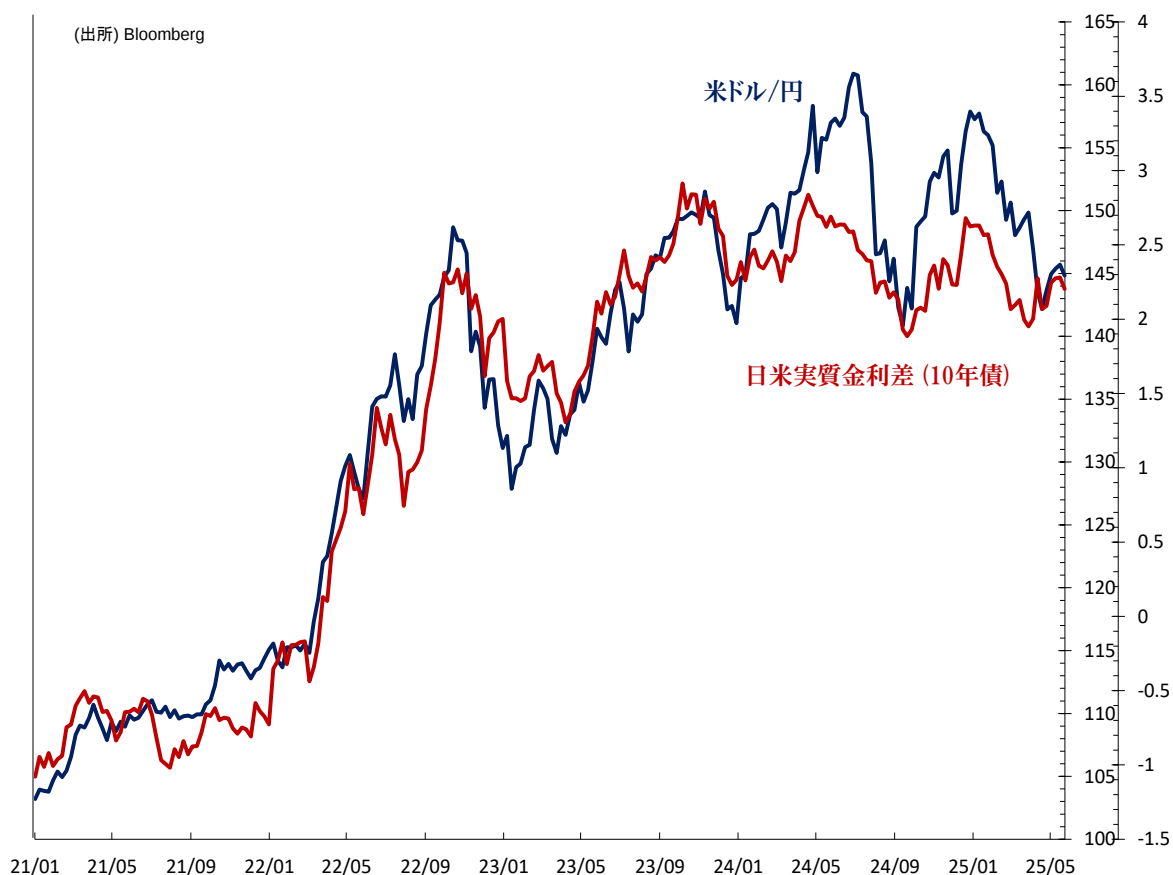
[151.586 円]…マル i 波の 61.8%戻り

金利差からのドル/円推計値

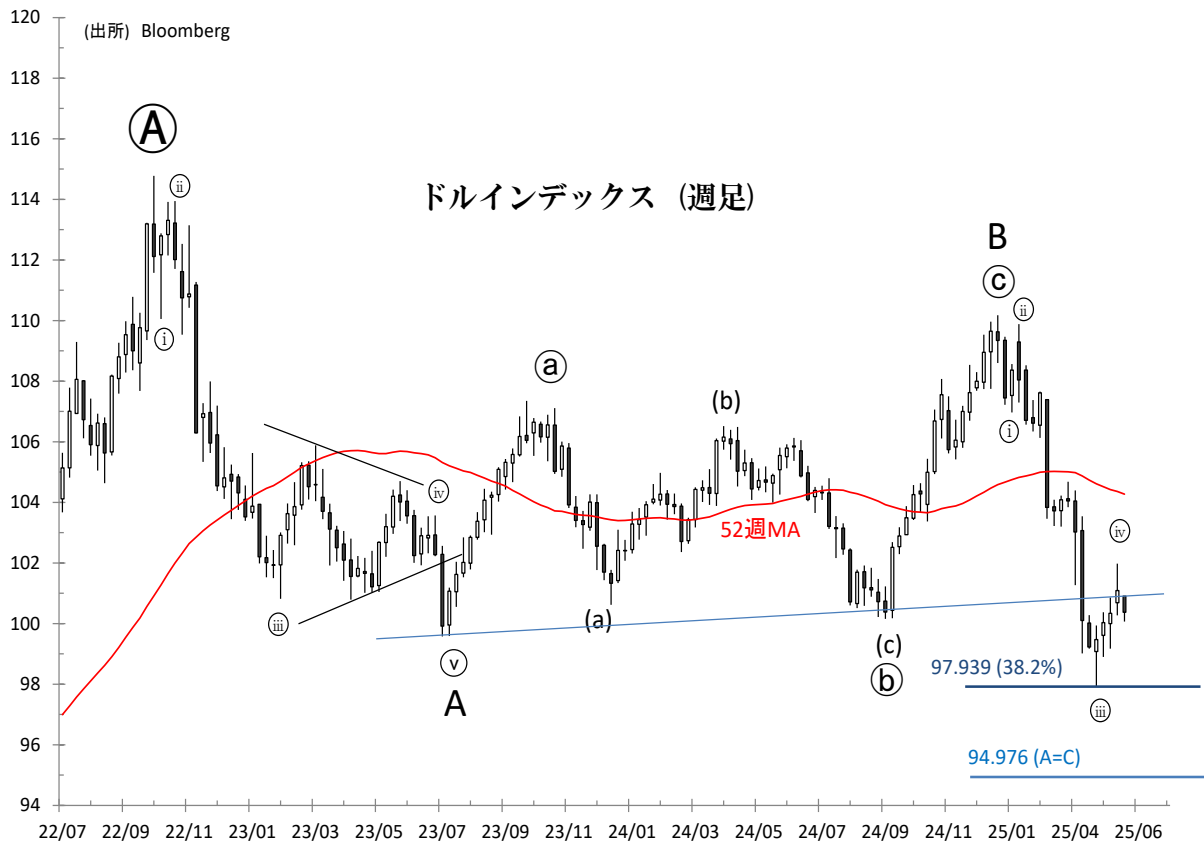
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[146.108 円]です。

投機筋の円買い持ち高が縮小(2025 年 5 月 13 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋（非商業部門）の円買い持ち高は、前週の 155.1 億ドルから 146.0 億ドルへ前週に続き縮小しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

ドル指数は 4 月 21 日安値 (97.921) を以て、フィボナッチ・サポート [97.939] (08 年からのドル高に対する 38.2% 戻り水準) をちょうど達成しました。そこからは、C 波中マル iv 波によるリバウンドとみています。

マル ii 波がジグザグだったことから、マル iv 波は保ち合い相場となりやすいでしょう。保ち合いの後には、C 波中マル v 波のドル安基調が再開し、4 月安値を下回るでしょう。さらには [94.976] (A=C) を試す可能性があります。

一方、C 波自体が終了している可能性もあります。

この場合、22 年からの A-B-C ジグザグは完成し、それに続く (X) 波に入ったとみられます。この見方に基づくと、ドル指数は当面 52 週 MA を試し、さらにそれを上抜く可能性があります。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
